



飛騨っ子



< 通信【飛騨っ子】 >

令和6年7月3日発行 NO4
飛騨県事務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育推進専門職 : 水口 悟
TEL : 0577-33-1111 (内線 235)
E-mail : mizuguchi-satoru@pref.gifu.lg.jp

集まる機会を大切にする

◇ 高山市立宮小学校開校 150 周年記念事業（親子観劇） 行事参加型 命の大切さ 思いやり

◇ 主な日程 ◇

- ・ 12 : 45 開場
- ・ 13 : 00~ 記念挨拶
- ・ 13 : 10~ 観劇（あらしのよるに）
- ・ 14 : 30 お礼の言葉（代表児童）

- 期日：令和6年6月14日（金）
- 会場：宮小学校 体育館
- 主催：宮小学校 PTA 家庭教育委員会
- 演目：ミュージカル あらしのよるに



< 親子観劇 あらしのよるに >

平日にも関わらず、たくさんの方（保護者・地域の方）が体育館に集まっています。コロナ禍が明け、集うことの楽しさや大切さを感じているのかもしれませんが。挨拶したりお喋りしたり、開始時間までも楽しい。さらに、子どもたちと一緒にミュージカルを観劇できるとなれば、楽しさは格別です。

宮小学校では、PTA 組織を見直し、これまでの研修委員会と母親委員会を統合し、家庭教育委員会としました。始めの言葉から閉会までの終始を家庭教育委員会の方々が前面に立ち活動されていました。また、まちづくり協議会と家庭教育委員会が連携し、町内会や長寿会また乳児学級へチラシを配布したり回覧したり、郵便局等にポスターを掲示したりしたと伺いました。小さな連携は大きな動きにつながります。



< ともに 観劇！ 感激！ >

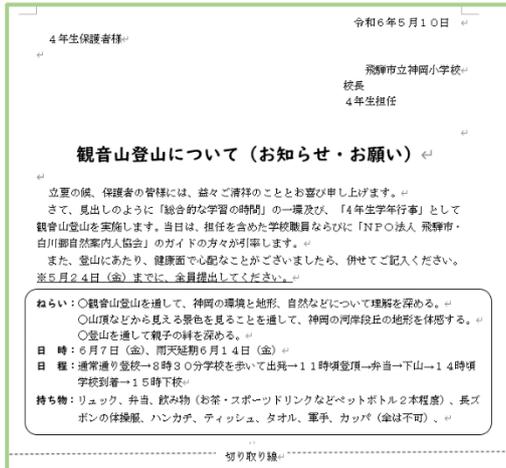
8名の劇団の方々がそれぞれ複数の役割を演じ、動と静の場面が繰り返されながら劇が進んでいきます。劇が進行するにつれ、主人公となるおおかみとやぎの関係ががどうなっていくのか、葛藤する2人（2匹）の姿にドキドキハラハラします。

『ちがっているけど気の合う友達 独りだと寂しいけれど一緒にいるとほっとする』（劇中の言葉より）

委員長さんが冒頭で話されたテーマ「ともに生きること」「命」「勇気」「友情」の言葉が、頭の中で巡ります。

やはり本物の体験は、すばらしい。そして、学校は地域コミュニティーの核です。子どもたちだけではなく、親も子も地域の方も先生方もともに学び合えるところです。そして、つながり合えるところです。1つの学校（園）行事は、視点を変えてみると家庭教育にも地域づくりにも大きく関わっていることがわかります。節目となる行事を家庭教育や地域づくりの視点からも見つめ、取り組まれたことがすばらしいです。

◇ 飛騨市立神岡小学校 観音山 登山 行事参加型 自制心 家族の大切さ



- 期日:令和6年6月7日(金)
- 会場:観音山(標高 803m)
- 主催:飛騨市立神岡小学校 4年生
- 講師:NPO 法人 飛騨市・白川村自然案内人協会

飛騨市立神岡小学校では、家庭教育学級を次のように計画し取り組んでいます。

- ・年間を通し、親子の交流を目的とした全校親子読書の取組
- ・学年の学習内容や行事また地域行事に合わせた学年ごとの取組。(親子の学習会・体験会・交流会)また、学年により地域の講師と協力。

◇ 主な日程 ◇

- ・ 8 : 30 出発
- ・ 11 : 00 登頂 昼食
(簡易トイレ設置)
- ・ 12 : 00 下山
- ・ 14 : 00 学校着 (ふりかえり)

「観音山はどこですか?」「あの小さく見える鉄塔の向こう!」
神岡小学校から観音山の山頂は見えません。目標が見えないと誰しも心が不安になります。でも大丈夫。みなさん元気!元気!子どもたちも親さんも、校長先生も先生方も、意欲満々。出発式では、気合が入ります。

4つのグループに分かれた親子を案内人と学校職員が見守りながら進みます。夏緑深まる中、松の葉などの落ち葉でふかふかの山道を親子でゆっくりゆっくり歩く体験はとても心地がよいです。貴重な時間です。親も子もお互いに支え合える仲間の存在は、長い道のりを歩く心の支えになります。保護者同士のつながり(子育てネットワーク)が、子どもたち一人一人の存在感や連帯感を育てています。

案内人の方が、植物等のお話をしてくださいます。(案)「これはコンテツ。春先には天ぷらにして食べるんだよ。」(児)「え〜、私、食べたの?」(母)「美味しい、美味しいって食べてたよ!」

十二番目の観音堂の前には、五本立ちの大樹がありました。(案)「この大木は五葉松(ごようまつ:ヒメコマツ)って言うんだよ。ちょっと幹の周りを測ってみましょうか。」お父さんが何とか大木の周りに紐を渡します。(父)「4m84cmもあるね!」・・・親子で地元の山々を歩き、まちの自然や地形、環境を学ぶ機会はなかなかありません。

275段の階段に差しかかり、登頂まであと少し! 山頂近くから神岡のまちを覗いてみると、高原川に沿って河岸段丘が続いていることがわかります。

山頂につくと、国指定の史跡となった「傘松城跡(からかさまつじょうあと)」の標柱のある広場で、待ちに待った昼食が始まりました。何より親子で登頂した達成感の共有が清々しい! まさしくわが子の歩みは私の歩みです。



< ふかふかの山道 >



< 五葉松(ヒメコマツ) >



< 傘松城跡にて昼食 >

◇ こくふ保育園 こくふっこミーティング 家族の大切さ 行事参加型+サロン型+講演会型

◇ 主な日程 ◇

- ・ 9:00～ こくふっこミーティング
- ・ 9:40～ 講話
- ・ 10:10～ 保育参観

- * 事前資料 わが子育てを見つめよう
- * 事後資料 感想用紙&園だより



< 時間を忘れて交流 >



< 子育ての肯定感を高めよう >

おすすめ! **子育てサロン型家庭教育学級**

最近、投稿動画に夢中で、家にいる時はずっと携帯画面を覗いている娘。話しかけても、反応がなくて...みなさんのお子さんはどうですか?

どうやって子どもが納得できる約束を作りましたか?

わかります...だからうちでは、家族で過ごしているときの約束を作りました。約束は一方的なものではなく、子どもが納得できるものがいいですよ。

● 保護者のネットワークづくりが期待できます
● 子育てのヒントがつかめます

< L 研修会: 県の説明動画より >

- 期日: 令和6年6月6日(木) 午前9時00分～
- 会場: こくふ保育園 遊戯室
- 主催: こくふ保育園 (対象: 年中園児の保護者)
- 講話: 子育ての肯定感を高めよう(家庭教育推進専門職)

こくふ保育園では、年間を通してクラス別(0～2歳児・年少・年中・年長園児)の保育参観に合わせ「こくふっこミーティング」を開催しています。園長さんが「コロナ禍により、この年齢のお子さんや保護者の方々は、親子のふれあいや子ども・親同士の交流がなかなか思うようにならない状況にあった。」と話されました。

こくふっこミーティング(サロン型家庭教育学級)は、どのグループも時間を忘れ熱心な交流が行われました。

コロナ禍の期間には、子育ての悩みや不安が一層膨らんでいたのかもしれませんが、家庭教育学級は、孤育てさせない有効な手立てです。また、保護者みんなで力を合わせ、子どもたちを育てていこうとする姿は地域社会の基盤をつくります。



<こくふっこミーティングの感想>

- ・悩みを打ち明けるだけでこんなに気持ちが高くなるんだな...、話してよかったなと思った。楽しかった。
- ・皆さん同じような悩みを抱えてみえ、話を聞いて安心した。話を聞いてもらえるだけでなく、共感してもらえ独りじゃないと感じられるとても貴重な時間だった。
- ・子育てをしている同士と感じて心強かった。もっと話してみたいなと思った。
- ・経験豊富な育児の先輩お母さん方と時間いっぱいにお話ができてよかった。自分が経験していないことやこれからのことなど、未知の世界にふれてとても刺激になり、同時にまだまだだと思うことや今のままでよいと思うことなど、たくさんの学びがあった。
- ・これから長くかかわることになる親さんたちと話せるすごくよい時間だった。これをきっかけにこれからも声をかけやすくなるし相談しやすくなるので、お互いに話して育児が楽しく悩みが軽くなればいいなと思った。

<講話の感想>

- ・「わが子の変化に気づく、自分の変化に気づく“幸せ”という言葉が、とても印象的だった。子ども親も自己肯定感を高めながら子育てできるといいなと思った。
- ・一番感銘を受けたのが「言葉の言い換え」でした。リフレーミングするだけで、考え方、感じ方が変わるし、マイナスに思っていたことがプラスに変わった! 自己肯定感を高める大切さがわかった。



<リフレーミング>

